

株式会社 ファンクス

静岡県静岡市清水区入江岡町 1-8
入江岡コーポ 1B

災害の多い日本においてドローンの需要が年々高まっている。そうした中、ドローンによる家屋調査や災害調査を手掛けているのが『ファンクス』だ。牧田社長は業種の枠を超えて幅広いビジネスに挑戦してきた経営者。これまでの経験を活かし、事業を成功に導く社長に、つまみ枝豆氏がインタビューを行った。



ドローンを活用した事業で 多くの人々の生活を支える

——『ファンクス』さんではドローンに関する事業を展開されているそうですね。

ええ。ドローンでの家屋調査や災害調査をメインに、空撮、ドローンを活用した企画立案を行っています。

——牧田社長はどのような経緯でこの事業に着手されたのですか。

元々、私は学業修了後から1年ほどファイナンシャルプランナーとしてビジネスを手掛けていました。その後、今も続けているweb関連の仕事を個人事業で始めたんですが、当時子どもが生まれたことから生活を安定させるためにも並行してサラリーマンとしても働くことに。そうした生活を3年ほど続けたころ、個人事業の収益が安定してきたのでサラリーマンを退職。サラリーマン時代に知人から勧められたドローンの魅力の虜になり、可能性を感じたことから自分

でも事業を始めるべく当社を立ち上げました。

——お様が小さいですしサラリーマンを辞める時には勇気が要ったでしょう。

そうですね。しかもちょうど家を建てたばかりでしたから、周囲には猛反対されました。ですが、却って挑戦心が湧いてきて(笑)。幸い妻も応援してくれましたし、思い切ってスタートしたんです。

——ここ数年、ドローンの活躍が目覚ましいですね。災害の映像もドローンでの撮影が当たり前になっていますし。

当社ではそうした撮影も行っていますし、あとは建物の損害調査も個人・法人を問わず多くの需要をいただいています。たとえば住宅が災害に遭って破損した場合、ドローンを使って写真を撮影し、損傷が自然災害によるものか見極めるんです。そして自然災害によるものと分かれば、修繕の見積もりも含めてまとめ、お客様から保険会社に提出していただく保険の申請サポートを行っています。

——日本は災害大国ですからますます需要が高まりそうです。

始めた当初から、将来的なフランチャイズ化と全国展開を視野に入れており、誰がやってもきちんとできる仕組みづくりを続けてきました。あとは販路を広げ



代表取締役

牧田 祐翔

ていだけでです。

——技術指導などもされるご予定で?

ええ。希望者を募って現場に同行してもらい、やりたい方がいれば技術指導や、スクールで学んでもらう予定です。すでにフランチャイズの募集はかけていますが、まずは地盤をしっかり固めたいので、まだ積極的には動いていないんですよ。

——これからが楽しみです。今後についてはどのようにお考えですか。

投資などを通じ、会社として資産を持って事業を進めたいですね。そうすれば余裕を持って事業に取り組みますし、今後人材が増えた際に今回の新型コロナのような不測の事態が起こっても、動かない企業になれると思いますから。

(2020年7月取材)



「ビジネスに関わる勉強は好きで苦にならない」と牧田社長。その向学心とチャレンジ精神で事業をさらに成長させていって下さいね!

interviewer
つまみ枝豆